

# ふらっと立ち寄ってゆっくり温まる 地域に根付いた天然温泉の銭湯

栗の湯  
オーナー 栗山 博好さん

「自分ちの風呂」のように気軽に入浴できて  
木の温かみや自然が感じられる銭湯

1958年に桜新町で創業した「栗の湯」。1985年から栗山博好さんが3代目として営業を引き継ぎました。「その後、2代目だった父親が2017年に亡くなったため、しばらく休業していたのですが、その間、自分が栗の湯を継ぐかどうか悩みました。私が子どもの頃は栗の湯を遊び場にして育ち、風呂屋が大好きだった。近所の方々が『自分ちの風呂』という感覚で気軽に入れる銭湯を残しておきたいという思いから、栗の湯を続けようと決断しました。

栗山さんが栗の湯を継いでから2度の改装を経て、宮造りで大きな屋根の風情ある銭湯らしい建物を完全に建て直すことにしたのは、東日本大震災がきっかけだったといいます。「地震で、建物の軸となる柱が傾き、煙突にもヒビが入ってしまったのです。耐震補強や改装でもお金はかかるし、放っておいて、もし地震で柱が倒れたら大災害になるので、思いきって解体することにしました。

昨年7月に新築で「湯っりのゆ」としてリニューアルオープン。良質の黒湯の天然温泉はそのままだに、人気のサウナ室を広くしてオートロウリュを導入、新しく井戸水の掛け流しの水風呂や開放感いっぱいの露天風呂を設置しました。新築するにあたって、栗山さんが一番こだわったのは「木造」でした。「1階は広いロビーにしたくて浴室を2階にしたため、建物の強度面から鉄筋コンクリートになりましたが、2階部分はすべて木造で、木の温かみを大切にしました。自然に近い体験をしてもらえるよう、外気や風を感じられる露天風呂も新しく設置しています」。東日本大震災のとき、帰宅困難者にトイレを貸した経験から、トイレの数を増やして、水道が止まっても井戸水が使えるように井戸を残したそうです。「災害時、多少なりとも地域の方々のお役に立てたらいいな、と思って、ロビーも広くしました。今は電気をどう確保するかを考えているところです」と栗山さん。地域の方々に喜んでもらっているのはもちろん、遠方からのお客様も増えているそうです。

地域の方々にロビーを開放  
次世代へつながっていく銭湯でありたい

地域に密着した銭湯でありたいと考え、1階のロビーは営業前の午前中2時間くらい、会合などに貸し出しています。「今は世田谷区社会福祉協議会の子ども支援サポートグループの育児教室で利用してもらっています。地域の方々の寄り合いの場所になればいいですね」という栗山さん。世田谷区は65歳以上に入浴券を支給していることもあり、高齢のお客さまも多くいます。車を利用する方のために3台分の無料駐車場を用意し、2階の浴室へ上がるエレベーターも設置して、高齢の方への配慮を考えたそうです。



最初は高齢の方がメインになると考えていた栗山さんですが、10代後半から60代以上まで幅広いお客さまがサウナを利用されています。「新築以前の改装時にサウナを付けてみたら好評だったので、今回はスペースを広くしてロウリュを取り入れました。温泉の水風呂はめずらしいので、井戸水を利用することで黒湯の水風呂をウリにしています」。近隣の方が帰り道にふらっと立ち寄れるよう、浴室にはボディソープとリンスインシャンプーを設置。レンタルタオルなどで手ぶらでも入浴できます。「近くにお住まいの方にゆったりと入っていただき、『温まったよ』と言われるのが嬉しいですね。昔から来てくださっている方のお子さんやお孫さんが、『子どもの頃に来ていたから』と再訪してもらえるのもありがたいです。お客さまとの会話は、いろいろな情報も得られておもしろいですよ」。世田谷区に銭湯を増やすことができれば、と願っている栗山さん。今は、ゆず湯、菖蒲湯など、いろいろな変わり湯を増やして季節感を味わってもらいたいと考えているとのこと。



番台を撤去して、フロント形式の受付にした。今回の新築時に設置した看板は、木の板に従業員がデザインした手描きの「湯っりのゆ」が好評。黒板なども従業員や子どもたちが書いている。



栗の湯 | 新町1-36-6

TEL : 03-3702-3305 [https://www.instagram.com/kurinoyu\\_sento/](https://www.instagram.com/kurinoyu_sento/)

